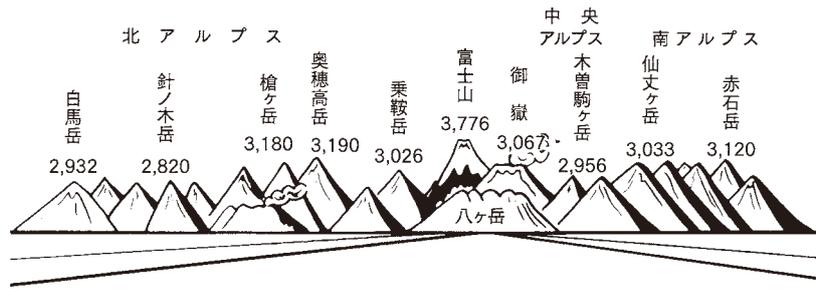


第 64 号

平成31年3月



砂防ニュースレター「長野」



国土交通省 砂防部長室において

目 次

- ・全国治水砂防促進大会開催される …………… 2
- ・砂防現地視察と討論会に参加して …… 6～8
- ・要望活動の実施 …………… 2,3
- ・「歴史から学ぶ 地域の防災」シンポジウム開催される …………… 9,10
- ・赤木功績賞の受賞 …………… 3
- ・「出川照岡砂防堰堤」完成式行われる …… 11
- ・重要文化財牛伏川階段工完成100周年記念行事開催される …………… 4,5
- ・平成31年度砂防関係予算他 …………… 12

「全国治水砂防促進大会」開催される

全国治水砂防協会主催の全国治水砂防促進大会は、平成30年11月20日（火）、砂防会館別館シェーンバッハ・サポー（東京都千代田区）で開催されました。当日は、全国から会員等1,187名が出席し、長野県支部も藤澤県協会会長をはじめ全国最多の88名（市町村長：39名、副市町村長2名）の会員、関係者の皆様にご出席いただき、活気に満ちた大会となりました。

大会に先立ち、松本浩司NHK解説委員から「命を守る“避難”をどう徹底するのか～7月豪雨の教訓～」と題して7月の西日本豪雨を踏まえた住民避難のあり方についての特別講演が行われました。大会では、森昌文国土交通事務次官の祝辞に続き、栗原淳一国土交通省砂防部長から「これからの砂防」と題しご講演いただくとともに、三村裕史広島県熊野町長から「平成30年7月豪雨災害」、岡原文彰愛媛県宇和島市長から「西日本豪雨について～がんばろう！宇和島～」と題して、意見発表をいただきました。

最後に、土砂災害から人命を守り、安心して生活ができる強靱な国土を実現するため、砂防関係事業の促進についてまとめた大会提言を村上全国治水砂防協会副会長が説明され、満場一致で採択し、閉会后関係各方面に要望活動を行うこととしました。



要望活動の実施

長野県治水砂防協会では、全国治水砂防促進大会が行われた平成30年11月20日（火）の午後、県選出の衆参国会議員及び国土交通省へ要望活動を行いました。

要望活動では、8月に行われた県協会総会で採択された決議（要望事項）及び当日午前の全国治水砂防促進大会で採択された提言書を手渡しました。

当日は、国会審議が当初予定より長くなり、衆議院本会議で採決が行われている時間帯と要望活動が重なったため、秘書の方々を経由した要望が多くなってしまいましたが、多数の市町村長様をはじめ、市町村職員、賛助会員の皆様にご参加いただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

殿

要 望 書



平成30年完成 扇沢 大町市 東海ノ口
(保全対象：人家22戸、国道148号、JR大糸線)

平成30年11月20日
長野県治水砂防協会

砂防事業の推進について

長野県は、豊かな自然環境に恵まれる一方、県土の多くが急峻な地形と脆弱な地質で構成されているため、土石流、地すべり、がけ崩れ、雪崩などの危険箇所が多く、過去幾度となく土砂災害に見舞われてきた。

さらに、深層崩壊や地震、浅間山、御嶽山、焼岳などの火山活動に伴う大規模な土砂災害による壊滅的な被害を受けてきた。

このため長野県では、砂防関係施設の整備を強力に推進してきているところであり、神城断層地震や飯山市井出川山腹崩落災害において、砂防堰堤が持つ機能を十分発揮し、流出土砂や流木を捕捉し、下流地区での被害を軽減することができた。

このように県民の生命、財産を守る土砂災害対策、とりわけ、要配慮者利用施設や避難所、避難路の保全、さらには砂防関係施設の老朽化に伴う長寿命化対策は喫緊の課題となっており、ハード・ソフト両面から砂防事業を促進し、優先される課題を解決することが強く求められている。

よって、これらの課題解決に向け、国及び県におかれては、次の事項を実現されるよう強く要望する。

記

1 国は、平成31年度予算編成にあたっては、土砂災害から県民の生命、財産を守り、強靱な県土づくりに向けて、砂防施設の整備や既存施設の長寿命化の対策などハード対策の所要額を確保するとともに、地方負担に対する適切な財源措置を講じること。

さらに、平成29年九州北部豪雨災害や平成30年7月豪雨災害等により2年連続で大規模な土砂災害が発生したことを踏まえ、「重要インフラの緊急点検」に基づき今後3年間で集中的に実施する防災・減災対策は、通常予算に影響を及ぼすことなく、別枠予算を確保すること。

2 深層崩壊、地震、火山活動などに伴う大規模な土砂災害に対して、国と県は連携してハード・ソフト両面から総合的な対策を積極的に推進すること。

3 国は、土砂災害防止法に基づく基礎調査・再調査の実施、区域の指定、土砂災害警戒情報の発表などのソフト対策を積極的に推進するとともに、適切な財源措置を講じること。

4 天竜川中流地区の地すべりは、広範囲に被害が及ぶ恐れがあり、対策には高度な技術を要し、国土保全上重要と認められるため、直轄地すべり対策事業を実施すること。

5 国は、災害時の市町村等への技術支援を継続するとともに、地方整備局等の体制強化を図ること。

さらに、次世代の土砂災害に関する専門技術職員や研究者などの育成に向けて、地方の大学における教員の確保や欠員解消等必要な対策を講じること。

赤木功績賞の受賞

赤木正雄顕彰の贈呈式が、平成31年2月14日（木）に砂防会館別館で行われ、長野県関係では、唐澤行雄氏と尾坂壽夫氏に「赤木功績賞」が贈呈されました。

この赤木正雄顕彰は、「砂防の父」と呼ばれる赤城正雄先生の遺業を追慕するとともに、その志を伝えるために、全国治水砂防協会が昭和50年から毎年、砂防技術及び事業の発展に功績のあった方を顕彰しています。今回受賞されたお二人は、長野県職員として、県庁砂防課や現地建設事務所において長年にわたり砂防事業の実施に尽力された功績が認められました。

唐澤氏は贈呈式を欠席（内山寿長長野県砂防ボランティア協会長が代理出席）されましたが、尾坂氏は全国治水砂防協会の池谷副会長から賞状を授与されました。

受賞おめでとうございます。



表彰式



赤城正雄先生の銅像前で記念撮影

「重要文化財牛伏川階段工 完成100周年記念行事」が開催される

石積砂防シンポジウム・県民講演会

1. はじめに

牛伏川階段工は、長野県松本市内田地区の牛伏川上流部に位置する石積みでできた砂防施設です。平成24年度には「印象的な落水表情をもつ階段状の砂防施設」として、国重要文化財に指定されました。

牛伏川流域一帯は、江戸時代からたびたび洪水が発生し、下流地域に大きな被害をもたらしてきました。明治18年（1885）に内務省が砂防工事を着工し、明治31年（1898）から国費補助を受け長野県が引き継ぎ、大正7年（1918）に完了、今年（2018）で完成100周年を迎えました。

このことを機として、地域住民や行政で構成する実行委員会を立ち上げ、

- ① 石積み技術・砂防遺産の情報発信
- ② 住民参画による階段工の維持管理の促進
- ③ 土木事業の理解促進
- ④ 土砂災害防止に対する意識向上

を目的とした記念行事を開催しました。



現地見学会の様子

2. 現地見学会（10月18日）

現地見学会には、約150名が参加し、歩く速度に合わせて3班に分かれ、ガイドの説明を受けながら散策しました。

見学した施設は、牛伏川階段工のほか、内務省1～5号堰堤、張石水路等です。いずれも石積みでつくられた施設ですが、施設ごとに特徴があります。

参加者からは「きれい」、「水の流れる音が癒やされる」、「石積み技術の確かさを感じる」等の感想が寄せられていました。

参加者には、砂防カード（7枚セット）と缶バッジ（写真）を記念に配布しました。



参加者に配布した限定の砂防カードと缶バッジ

3. シンポジウム（10月19日午前）

シンポジウムには、300名を超す参加者があり、後藤芳孝松本市文化財審議委員から「重要文化財として評価された牛伏川流水路（牛伏川階段工）」と題してご講演いただきました。講演では、牛伏川階段工が重要文化財として評価された理由に、①石積み技術の高さ、②歴史的価値の2点が挙げられるが、価値を高めている事項には、地域住民の洪水を防ぐための先人た

ちの営みと業績を後世に伝えていこうとする意思と行動があると結びました。

事例発表では、それぞれの地域（広島県、岡山県、福井県、岐阜県、富山県、新潟県、長野県）での活動について、維持管理、やりがい、課題等を発表いただきました。



災害学習発表

4. 県民講演会（10月19日午後）

引き続き開催した県民講演会では、太田寛長野県副知事、菅谷昭松本市長の挨拶に続き、笹本正治長野県立歴史館長から、「災害と伝承」についてご講演いただきました。講演では、①伝説・民話、②「牛、龍、犀」が付された湖沼や川、地名と過去の災害が密接に関わっていること、とりわけ「赤牛」伝説について事例を挙げて、災害伝承の大切さを講演いただきました。

松本市立明善小学校5年2組の児童からは、牛伏川で学んだ災害学習発表がありました。災害学習では、現地見学に始まり降雨体験車による体験や土石流模型、扇状地の形成模型による牛伏川の歴史を学習しました。



講演 笹本県立歴史館長

県民講演会当日には、「大きな石をどうやって運んだのか知って驚いた」、「階段工がなければ生まれていないのではないか」、「階段工をつくった昔の人に感謝」等の発表がありました。

最後に朗読劇「鶴鴿の女（せきれいのひと）」が雪華の会（ゆきげのかい）により上演されました。牛伏川の砂防工事に携わった石工職人と6歳の女の子の話です。とても切ないストーリーと熱演により、会場からはすすり泣く声が聞こえました。

5. おわりに

シンポジウムの開催前から駅構内や大型商業店舗等の人の集まる場所で、パネル展示や絵画展、新聞等をとおして広く情報発信を実施してきました。行事に参加した方からは、「100年前につくった砂防施設が残っていることに感動した」、「砂防施設の大切さが分かった」等の声が寄せられました。

今回の行事を通して、これまで牛伏川の歴史を知らなかった地域の人たちが改めて歴史を知る機会となり、地域一体となった防災意識の醸成が期待されるところです。



朗読劇 雪華の会

第7回砂防現地視察と討論会に参加して

小谷村長 松本 久志

はじめに

昨年の10月25日～26日に全国治水砂防協会が市町村長を対象に開催した「第7回砂防現地視察と討論会」に参加しましたので報告します。今回は、平成29年7月の九州北部豪雨災害の土砂災害現場等を視察し、討論会を行いました。全国から18名の市町村長が参加し、長野県からは阿南町、天龍村、池田町、白馬村と小谷村の5町村の首長が参加しました。

視察と討論会の概要

現場視察は10月25日に、朝倉市杷木星丸の正信川、赤谷川の災害現場、東峰村宝珠山の本迫川の災害現場を視察し、10月26日は朝倉市山田の奈良ヶ谷川の災害現場を視察し、現地では担当者による説明の後に参加者から質問等が行われました。

25日の現地視察後の討論会では、全国治水砂防協会の岡本理事長の主催者挨拶に続き、福岡県砂防協会会長や国交省砂防部長、朝倉市長等の来賓挨拶があり、水野九州大学准教授の災害についての説明や、九州地方整備局、福岡県、朝倉市、東峰村からは具体的な災害対応等について報告がありました。

討論会では、平成30年は7月豪雨や度重なる台風による土砂災害、風水害により人的被害だけでも、死者・行方不明者は260人を超え、負傷者も1,500人を超えていることから、質問や活発な意見交換が交わされました。

企画・運営をしていただいた全国治水砂防協会の皆さん、また、資料の作成や現地での説明など、国交省九州地方整備局や福岡県、朝倉市、東峰村の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。



【朝倉市杷木星丸の正信川の現場：右写真の正面の小溪流から土石流が住宅を襲った。左写真の人家裏の斜面では急傾斜地崩壊対策工事を施工中でした。】



【朝倉市赤谷川の災害現場 右写真の家は河道よりだいぶ高い位置にあったそうですが、流出土砂の仮設道路より1階部分は低く見える。国交省九州地方整備局は、改正河川法に基づき権限代行制度を全国で初めて適用し、福岡県に代わって緊急的な河道の確保（土砂や流木の撤去）を行った。また土砂対策は新たに国の直轄砂防事業により砂防堰堤等の整備を実施する。】



【討論会 住民参加の避難訓練や避難マップ作成が有効なことが話題となった一方で、「避難情報を発表しても避難しない」など、警戒避難が難しいという話もありました。】

豪雨災害時の気象状況

「大雨特別警報」が発令されるなど、線状降水帯が長時間維持されたため記録的な豪雨となった。

- 1時間雨量 福岡県朝倉市朝倉：129.5mm（7月5日15時38分まで。観測史上1位を更新）
福岡県朝倉市寺内（福岡県設置の雨量計）：169mm（7月5日15時20分まで）
- 3時間雨量 福岡県朝倉市朝倉：261.0mm（7月5日15時40分まで。観測史上1位を更新）
- 9時間雨量 福岡県朝倉市黒川：774mm
- 24時間雨量 福岡県朝倉市朝倉：545.5mm（7月6日11時40分まで。観測史上1位を更新）
福岡県朝倉市付近：約1,000mm（7月6日8時まで。解析雨量）
福岡県東峰村付近：約600mm（7月6日8時まで。解析雨量）

（線状降水帯：次々と発生した雨雲（積乱雲群）が、数時間にわたって同じ場所を通過または停滞するため作られる線状に伸びる強い雨域）

被害状況

急峻な山岳や荒廃地が見受けられないのに、長時間にわたる猛烈な雨により、また、もろい風化花崗岩（真砂土）などの地質が災いし、いたるところで崩壊（表層崩壊）が起こり膨大な流出土砂と流木が発生し、土石流や崖崩れだけでなく、河道の埋塞による河川の氾濫などにより被害が拡大した様子です。

福岡県で37人（朝倉市で34人、東峰村で3人）、大分県日田市で3人、計40人の死亡が確認され、福岡県朝倉市で2人が行方不明になっています。住宅被害は、福岡県と大分県の合計で、全壊336棟、半壊1,096棟、床上浸水180棟、床下浸水1,481棟などとなっています。また、土石流等により被害の大きかったJR日田彦山線は被災から1年以上過ぎましたが現在も不通となっています。



【写真左：東峰村宝珠山の本迫川の災害現場、斜め左からの土石流でJR線の駅のホームが流失】
【写真右：JR鉄道への地域住民の願い…平成7年豪雨災害でのJR大糸線の長期間不通が思い出されます。】

現地視察の感想

平成28年に熊本地震の現地を視察させていただいた時に阿蘇市の担当者から聞きましたが、「九州北部豪雨災害」と名付けられた災害は平成24年7月にもあり、この時も時間雨量は100mmを超え、熊本県、大分県、福岡県の被害は大きく、死者30人、行方不明者2人という大災害だったそうです。それから5年後の九州北部豪雨災害の災害現場での感想は、「百聞は一見にしかず」。降雨強度が猛烈な場合は、どこでも斜面崩壊や土石流が発生することを肝に銘じておきたいと考えました。特に小谷村も長野県内の他の自治体も数時間にわたり時間雨量が100mmを超える降雨を経験していません。ですから「線状降水帯が長時間維持される」などという現象が起きたとしたら大災害を免れないと思いますし、豪雨も直下型地震も、どこでも起こりうることを覚悟しなければなりません。災害を回避するための「避難」を考えると、猛烈な雨の中を指定避難所に避難できるか？警戒避難体制は大丈夫か？このことを再考しなければとも考えています。また、朝倉市赤谷川や奈良ヶ谷川の災害現場の視察では数キロメートルにわたり護岸より高く土砂が堆積し、流木の埋塞等もあり河川の氾濫が多数発生したと聞きました。河川改修が進み河川の断面が十分確保できたとしても、流出土砂や流木の埋塞による氾濫の恐れがあり、ハード対策として現在行われている砂防事業は土石流対策がほとんどですから、改めて「治水上砂防のため」に行われる水系砂防についても検討することが必要とも考えました。

地質が悪く急峻な地形が多い長野県内の市町村の皆さんには、砂防現地視察等に積極的に参加され、防災について考えていただければ幸いです。

「歴史から学ぶ 地域の防災」シンポジウムが開催される

～夜間瀬川直轄砂防施工100周年記念～

1. はじめに

夜間瀬川は、志賀高原を源流に持ち、千曲川に合流する急流河川です。江戸時代以前より土砂災害が発生しており、河川中流部の河谷沿いに立地する湯田中・渋温泉街は、しばしば激甚な土砂・洪水氾濫災害を受けてきました。

長野県は明治39年（1906）から砂防事業を開始しましたが、コンクリート普及以前であったこともあり明治42・43年（1928・1929）の大災害により、砂防施設の大部分が流失し事業が廃止されました。

その後、大正7年（1918）から内務省直轄事業として多くの砂防事業が行われ、今年（2018）で直轄砂防事業施工100周年を迎えました。

砂防の歴史や現在の取り組みについて情報発信を行い、減災へつなげていくことを目的にシンポジウムを開催しました。



直轄第39号砂防堰堤
(大正13年(1924)竣工)

2 シンポジウム

平成30年11月8日（木）13時30分から、山ノ内町文化センター3階ホールにおいてシンポジウムを開催しました。

当日の会場ロビーや3階ホールでは、土砂災害の防災減災に関する啓発、砂防事業の取り組みの紹介など国土交通省北陸地方整備局湯沢砂防事務所や県砂防課・北信建設事務所によるパネル展示を行いました。記念講演は、信州大学教育学部の竹下欣宏准教授から「地形・地質が語る夜間瀬川周辺の大地の生い立ち」と題してご講演いただきました。講演では、約2000万年前の深い海だった頃の時代から、約25



実行委員長あいさつ
(竹節義孝山ノ内町長)



信州大学教育学部
竹下欣宏准教授による講演

～20万年前の火山活動により大規模な扇状地の形成に至ったこと、上流域の脆弱な地質についてご説明していただきました。

つづいて、「夜間瀬川の災害と砂防の伝承」と題してパネルディスカッションが開かれました。

冒頭、この地域には過去に様々な災害があり、それを物語る多くの碑や民話が伝承されているため、そのうちの1つ「池に浮かんだ琵琶」を長野県治水砂防協

会の高橋千代子さんの朗読により紹介していただきました。

パネリストの長野県立歴史館の畔上不二男専門主事からは「夜間瀬川流域における江戸時代以前の水害と歴史」と題して、砂防フロンティア整備推進機構の井上公夫技師長からは「明治期以降の土砂災害史や、赤木正雄博士の功績、地域の観光振興に寄与した砂防事業」について話題提供をしていただきました。

さらに、竹節義孝町長や穂波温泉あぶらや燈千の女将 湯本純子さんからは、ご自身の経験を交えながら砂防事業の効果や、ご自身にできる災害の伝承などについて話していただき、ディスカッションが進められました。



民話「池に浮かんだ琵琶」の朗読風景



左からコーディネーターの田下砂防課長、コメンテーターの栗原砂防部長、パネリストの畔上専門主事、井上技師長、竹節町長、湯本女将の皆さん

コメンテーターの国土交通省水管理・国土保全局の栗原淳一砂防部長からは全体のまとめとして「観光地における災害の風評被害への懸念や今後の砂防事業とは何か」についてなどのお話をいただきました。

最後に、コーディネーターの長野県建設部の田下昌志砂防課長から「今日を機会にさらに防災意識が高まってくれば」とシンポジウムを結びました。

3 おわりに

私達が住む地域の地形の生い立ちからはじまり、土砂災害の歴史や砂防事業の変遷、そして今後の砂防とは何か、情報発信を実施してきました。国土交通省の栗原淳一砂防部長からも「本日聴講されている皆様からの真剣な眼差しを感じた」との言葉をいただいたとおり、我が事として考える場の空気がありました。来場者は300人を超え、地域住民の多くの方々のご出席されたことも、よい情報発信の場につながりました。

山ノ内町は、県内屈指の観光地であり、多くの外国人観光客も訪れています。砂防施設の文化的価値、防災意識の向上、観光地と共存する砂防についてさらなる取り組みが期待されるところです。



夜間瀬川に設置した砂防を紹介する看板を見る外国人観光客
(日本語・英語・中国語による3カ国語表記の看板を作製)

飯山市出川照岡砂防堰堤の完成式が行われる

昨年11月27日、飯山市照岡の川沿いの市道を走るとこれからの出番を控えた守り神は、白い雄姿で佇んでいました。その雄姿を見せた飯山市出川照岡砂防堰堤は、この日、完成式を迎えることができました。

遡ること1年半、平成29年5月19日、例年になく温かく快晴の日が続く飯山市照岡の井出川上流で、山腹の土砂崩落が発生しました。県が、設置した応急監視のカメラには、既設の砂防堰堤に土砂が堆積する様子が収められるとともに、現場の状況を確認する職員の前を道路やガードレールを越えて押し寄せる土石流の様子も映像に残されていました。

井出川下流の岡山地区では、10世帯26人に避難勧告、避難指示が発令され、11月20日の解除まで規制は続きましたが、幾度となく発生する土石流の映像がカメラを通じてテレビで放送されましたが、平成9年に完成した井出川砂防堰堤が、流木や土石流を捉え、下流の人家やJR飯山線及び県道を守り、被害を最小限にとどめることができました。



新たに完成した出川照岡砂防堰堤は、高さ13m、幅91.5mの透過型堰堤です。

現地では、11月27日に、国、長野県及び飯山市の行政機関、国会、長野県議会、飯山市議会の来賓の皆様に加え、警察、消防団、消防署、事業者及び地元関係者などが一堂に会して完成式が開催されました。完成式では、石塚忠範国土交通省水管理・国土保全局砂防施設評価分析官をはじめ、足立正則飯山市長、長谷川朋弘長野県建設部長、宮本衡司長野県議会議員、佐藤正夫飯山市議会議長の皆様に祝辞をいただくとともに、テープカット、久寿玉開披が行われました。

足立正則市長は、「完成式を迎えることができ、感無量の思い。既存の砂防堰堤が土砂や流木を捉え、人家や鉄道などを守ってくれ、先人に感謝したい。また、災害直後から、国、県に迅速に対応していただき、新たな砂防堰堤も1年半という短期間で完成を迎えることができ、感謝したい。」とあいさつされました。

また、地元岡山地区の米持区長会長からも、「迅速な対応に感謝しています。安全・安心な暮らしが確保されたとともに、この地域の豊かな自然と恵まれた水資源を次世代に残すことができた。」との感謝のあいさつをいただきました。



平成31年度 砂防関係予算

「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が平成30年度2月補正予算から始まり、長野県では砂防関係事業費として、37億円余が計上されました。

平成31年度の当初予算は、補助事業公共事業費が153億円余りで対前年比137.7%、県単独公共事業が4億7千万円余で対前年比104.5%となっています。全体事業費は、災害関連事業等を加えた全体事業費は、169億円余で、対前年比133.2%となっています。

当初予算と補正予算を併せた額は、207億円余となり、対前年比120.4%となります。

(単位：千円、%)

事業名	H30年度2月補正 (国補正対応分) (A)	H31年度 当初予算 (B)	(A)+(B) =(C)	H29年度2月補正 (国補正対応分) (D)	H30年度 当初予算 (E)	(D)+(E) =(F)	対前年比較	
							B/E	C/F
●砂防総務費	0	286,912	286,912	0	268,040	268,040	107.0	107.0
●補助公共事業								
□砂防費	2,061,280	8,938,800	11,000,080	2,498,080	6,466,200	8,964,280	138.2	122.7
□地すべり対策費	534,560	2,533,440	3,068,000	1,060,800	1,861,600	2,922,400	136.1	105.0
□急傾斜地崩壊対策費	1,196,000	3,838,640	5,034,640	743,600	2,787,200	3,530,800	137.7	142.6
小計	3,791,840	15,310,880	19,102,720	4,302,480	11,115,000	15,417,480	137.7	123.9
●災害関連事業								
□砂防費		300,000	300,000		300,000	300,000	100.0	100.0
□地すべり対策費		300,000	300,000	202,105	300,000	502,105	100.0	59.7
□急傾斜地崩壊対策費		200,000	200,000		200,000	200,000	100.0	100.0
小計	0	800,000	800,000	202,105	500,000	702,105	160.0	113.9
●県単独公共事業費								
□砂防費		254,000	254,000		237,000	237,000	107.2	107.2
□地すべり対策費		92,500	92,500		91,500	91,500	101.1	101.1
□急傾斜地崩壊対策費		127,000	127,000		124,500	124,500	102.0	102.0
小計	0	473,500	473,500	0	453,000	453,000	104.5	104.5
●砂防受託費		74,000	74,000		81,000	81,000	91.4	91.4
計	3,791,840	16,945,292	20,737,132	4,504,585	12,717,040	17,221,625	133.2	120.4

長野県治水砂防協会2019年行事等経過・予定

2月14日～15日	第59回砂防および地すべり防止講習会	東京都：シェーンバッハ・サポー利根
5月30日	第83回全国治水砂防協会通常総会	東京都：シェーンバッハ・サポー利根
〃	長野県治水砂防協会砂防講演会	東京都：砂防会館別館3階「穂高」
6月1日～30日	土砂災害防止月間	
7月16日	長野県治水砂防協会理事会	長野市：ホテル国際21 1階「葵」
8月2日	第81回長野県治水砂防協会通常総会	長野市：メルパルクNAGANO 3階「白鳳」
8月上旬～9月上旬	第6回土砂災害対策実務講習会	東京都：シェーンバッハ・サポー利根
10月24日～25日	第8回砂防現地視察と討論会 市町村長対象	広島県内
11月19日	全国治水砂防促進大会	東京都：シェーンバッハ・サポー利根
〃	〃 長野県治水砂防協会要望活動	東京都：衆・参議院議員会館、国土交通省

●第64号 編集・発行 長野県治水砂防協会 〒380-8570 長野市大字南長野幅下692-2 県庁砂防課内
TEL：026(232)0144 E-mail：n-sabo@sky.plala.or.jp